

No 12

Model House Report

Builder /
HUCOS 協同建設

Note /
コンセプトハウス
長野市松代町

人と自然がつながり共生する

HUCOS協同建設が従来の省エネ性能や
快適性を追求しつつ、

自然素材や自然エネルギーを最大限に活用し、
より環境に配慮した家づくりに

取り組みはじめました。

これを具現化したものが

同社のコンセプトハウスです。

中に据えられたのは土でできた蓄熱ドーム。

このシンボリックな空間で、

コンサルタントとして関わった建築士と

環境設備エンジニアが、

HUCOS代表と鼎談しました。

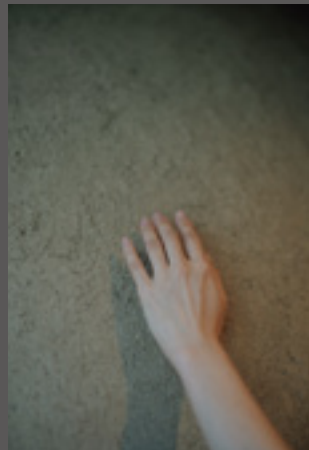
Facade

1階外壁は長野県産のカラマツを使用。2階は間隔をあけて端材を張った。いずれも無塗装で経年変化していく。外壁材の内側には構造材も兼ねる120mm厚のタテログ、そして120mmの木質吹き込み断熱、さらに60mmの木質ボードで覆う。木材の断熱性能と熱を蓄える蓄熱効果によって、外気の影響を受けにくい快適な室内環境を維持できる。



Terminal Dome

コンセプトハウスの中に設けられた蓄熱ドーム。「土は家の中で使う方が蓄熱効果を得やすい。遊び心だけでなく、きちんと理論に基づいているんです」



Doma Floor

和室をつなぐ通り土間には、踏石と蓄熱材を兼ねて、地元の柴石の古材をアップサイクル。



Structural Materials

角材(ログ)を縦に連ねた「タテログ」。現代の家づくりでは柱の間に石膏ボードや合板を入れるところを、いわば柱を並べたタテログが家を支え、内装仕上げも兼ねる。石膏ボードは産業廃棄物にしかないが、タテログはリサイクル率が高く、CO₂を吸収して炭素として固定する。どこでも生産可能で、地域の林業の活性化につながる。





Profile

佐藤 欣裕 (さとう・やすひろ／写真右)

有限会社もろくす建築社代表取締役社長、佐藤欣裕建築設計事務所代表。1984年生まれ、秋田県在住。独学で建築を学び、2012年に父の会社を継ぎ、代表に就任。欧米のサステナブル建築に影響を受け、自然素材を重視した設計を展開。環境調和と快適性を両立させる「原理的な住まい」を追求している。

蒔田 智則 (まきた・ともり／写真左)

henrik-innovationシニア環境設備エンジニア、通称「空気のエンジニア」。1980年生まれ、デンマーク在住。日本大学理工学部土木工学科卒業、イギリス・グリニッチ大学大学院・デンマーク工科大学大学院修了。コペンハーゲンを拠点に国内外で環境と調和する建築づくりに取り組んでいる。

斎藤 洋一 (さいとう・よういち／写真中)

協同建設株式会社代表取締役社長。1977年生まれ、長野市在住。2002年、父の会社に入社し、地元で根差した「HUCOS」ブランドの住宅デザインを開発。2013年に代表就任。2026年「自然がつながり共生する」のコンセプトを掲げ、ブランドを一新し、自然素材を多用する家づくりを行う。

HUCOS

Humanity & Nature
Connected
Sym

HUCOS 協同建設株式会社

〒381-1221 長野市松代町東条201

TEL 026-278-2976



出せず、かつ新築時においても古材を活用して建物を継承する——こうした循環型の住まいづくりを実現していました。

佐藤さんが抱いた斎藤さんの印象は「秋田と同じ寒冷地である長野で省エネルギーや快適性を追求して、とても親切な家づくりをしてきた人」。しかし斎藤さんは「これまで環境負荷への考えが浅かった」と自省し、これからの家づくりについて思いを巡らせました。

そんな斎藤さんを佐藤さんは欧州視察に誘い、デンマークの蒔田さんを訪ねます。蒔田さんは高いサステイナビリティを実現

しつつ、デザイン性豊かなデンマーク建築を紹介する本を著したばかり。

実際に建物を見学して「欧州ではCO₂削減への考え方が日本では想像できないくらい進んでいる」ことを目の当たりにした斎藤さんは、森林資源を循環させ、100年先の未来を見据えた家づくりへと舵を切ったのです。

佐藤さんが建築デザイン、蒔田さんがパッシブデザインで関わったコンセプトハウスは、「タテログ工法」で建てられました。タテログとは、一定に切りそろえた木材をビスで緊結して木の壁と

するもの。木材を耐力・防火・断熱・調湿・仕上げに生かします。家の内部には土や石を蓄熱体として採用しています。なかでもシンボリックなのが地元産の土でできた蓄熱ドーム。曲面壁の内部は居心地のいいライブラリースペースになっています。「この家は宿泊施設としても使うので、外からの目線をさえぎり、中にもれるようにしました」と佐藤さんは話します。

蒔田さんいわく「最初に僕が言ったのは、断熱性能や、風や光の入り方など根本的なことだけ。それを佐藤さんのアドバイスをもとに、斎藤さんが設計・

施工を手がけたら、こんなに面白い家になった」。

そして「サステイナビリティは難しいことでなく、楽しいからできること。数値を追うだけでは続かない」という蒔田さんの言葉に、佐藤さんと斎藤さんはうなずきます。

住んで楽しく、長く愛され、住み継がれる家であるように。そのために建築としては難しく、高度な計算が必要となっても、つくり手が納得感をもち、何より楽しみながら家づくりをしていきたい——斎藤さんは、これからのHUCOSの家づくりをそう展望しています。

人と自然がつながり共生する——これはHUCOS協同建設が2026年のリブランディングにあたり掲げたコンセプトです。これまでどおり省エネ性能や快適性を追求しつつ、自然素材や自然エネルギーを最大限に活用し、より環境に配慮した家づくりに取り組みはじめました。こ

れをよく体現しているのが2025年夏に完成したコンセプトハウスです。

コンセプトハウスの建設にあたって、一級建築士の佐藤欣裕さんと環境設備エンジニアの蒔田智則さんがコンサルタントとして参画しました。佐藤さんは秋田市・もろくす建築社の代表取締

役を務め、意匠と環境性能を両立させた家づくりに定評があります。蒔田さんは「空気のエンジニア」の異名をもち、デンマークを拠点に国内外で活躍しています。

HUCOS代表取締役の斎藤洋一さんが二人と出会ったきっかけは、スタッフとともに研修

旅行先として、もろくす建築社を訪ねたこと。そこで見たのは、斎藤さんが「自分たちとは異次元だ」と感じるほど環境性能に徹した建築でした。

自然から得られる光や熱を有効に活用し、環境に負荷をかけない身近な自然素材を選び、建築時も解体時もCO₂を極力排

